**公的医療保険を題材としたモデル授業②指導案**

○授業の目標

・人生には様々なリスクが潜んでいること、社会保障がリスクに対して国民全体で支え合う制度であることを理解する。

・各自が必要と考える社会保障制度について考察し、自らの意見を、論拠をもって表現する。

【１時間目】

|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点  （社会保障教育の視点） |
| --- | --- | --- | --- |
| 【問い】持続可能な社会保障の在り方はどうあるべきか。 | | | |
| １　社会保障について考えてみよう | | | |
| 導入  15分 | (1)わたしたちの生活と社会保障制度  (2)社会保障を支える財政 | 発問これからの人生で起こるかもしれない困難な出来事にはどのようなものがあるでしょうか？【ワーク１】  ○これからの長い人生のなかで直面するかもしれない困難な出来事についてワークシートに記入する。  ○副教材p.３「わたしたちの生活と社会保障制度」を見て、社会保障制度の全体像を把握するとともに、【ワーク１】で記入した様々な困難な出来事への対応方法として使えそうな制度についてワークシートにメモをする。  ○副教材p.４～５「社会保険とは？」「日本の社会保険制度」を参考に、社会保険の仕組みと意義を確認する。  発問社会保険がなかったら私たちの生活はどうなるでしょうか？【ワーク２】  ○社会保険がなかったら自分たちの生活、人生がどのようになるのか考察し、グループで議論する。  ○副教材p.６～８「社会保障給付費の推移」「社会保障の給付と負担の現状」「ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ」を見て、気付いたことを発表する。 | ○卒業後の直近の人生だけではなく、高齢期も含めて考えられるよう、アドバイスする。  ※困難な出来事については、主なもの（病気・ケガ、長生きによる収入減少、（自分が）介護（を必要とする状態になること）、失業、貧困）をあらかじめ提示し、自分にとってより困ると思う順番を付けさせるなどといった方法により、望んでいなくても誰もにこのような出来事が起こりうることを確認させてもよい。このとき、「長生きによる収入減少」については、長生きすること自体は望ましいことであっても、長生きすることによって必要となる生活費等を事前に予測することができず、経済的に困る可能性があることを補足する。  ○人生の中で起こりうる困難な出来事とそれに対応する社会保障制度の全体像を説明する。  ・私たちの安定した生活に欠かせない社会保障制度。日々の「安心」の確保や生活の「安定」を図るための制度であり、一生を通じて私たちの生活を支える役割を担っている。  ・日本の社会保障制度には、社会保険（◇医療・年金・介護等）に加え、社会福祉（☆児童手当、障害福祉サービス等）、公的扶助（○生活保護等）、公衆衛生（□感染症対策・保健事業等）がある。  （○ワークシートに記入した困難な出来事とその対応方法として使えると考えられる制度について発表させる。）  ○社会保険がない場合とある場合を比較しつつ、社会保険の仕組みと意義を説明する。併せて、日本の具体的な社会保険制度について説明する。  ・社会保険は、私たちの日常生活のリスクを分かち合うため、法律で対象者を定め加入を義務づけている。保険料の金額は原則、賃金などの負担能力に応じて決まる。（必要な保険料負担をしていないと必要な時にサービスを受けることができない。低所得者には保険料の軽減を実施。）  ○グループでの議論の結果をワークシートに記入させる。（いくつかのグループを指名して発表させる。）  ※具体的にイメージすることが難しい場合は、「医療保険がなかったら」などのように具体的な制度を１つ挙げて考えさせてもよい。  ○発表を整理して板書する。  ・国民１人当たりの社会保障制度利用にかかる費用（社会保障給付費）は年々増え続けている。  ・社会保障給付費の６割は保険料で賄われているが、税金も使われている。  ・一生の中で主に給付を受ける時期と、逆に主に負担する時期がある。  ※現在、給付は高齢期中心、負担は成人期中心というこれまでの社会保障の構造を見直し、切れ目なく全ての世代を対象とするとともに、全ての世代が能力に応じて負担し、公平に支え合う「全世代型社会保障」への改革が行われていることを補足してもよい。  ※参考資料「政策分野別社会支出の国際比較」を参考に、日本における高齢者に対する社会支出は、国際的に見ると、高齢化率の高さ（28.6％）の割にはそれほど多くないことを補足してもよい。  　・高齢者への支出の対GDP比は、スウェーデン（高齢化率20.0％）やドイツ（高齢化率21.8％）と同じくらいで、フランス（20.6％）より低い。  ※副教材p.８「ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ」の説明の参考などとして、p.９「社会保障制度を支える主な「職業」」を示し、保険料・税金を払う以外にも職業として社会保障制度を支えることもできること、社会保障制度には雇用を創出して経済を支える機能もあることを説明してもよい。このとき、身近な人が就いている職業や、将来やってみたい職業などに○をつけさせてもよい。 |
| ２．公的医療保険について考えてみよう | | | |
| 展開①  10分 | (1)公的医療保険の仕組み | 発問窓口で保険証を提示した場合、あなたが支払う金額はいくらになるでしょうか？【ワーク３】  (○それぞれのケースについて、自己負担額がいくらになるか計算し、発表する。)  ○自己負担割合と高額療養費制度についての説明を聞きつつ、回答をワークシートに記入する。 | (○それぞれのケースについて、計算した自己負担額とその計算方法を発表させる。ケース２について、高額療養費制度を知っている生徒がいれば、コメントするよう促す。)  ○自己負担割合と高額療養費制度について説明する。（コラム「高額療養費制度」参照。）  ・保険証を示すことで、国民誰もが原則３割の自己負担で医療を受けられること、保険料をプールしている仕組みなどを理解させる。（居住地域によっては一定の年齢まで医療費が無料又は定額である場合もあり、その場合は自己負担部分を地方自治体が公費（税金）で負担していることを説明してもよい。）  ・原則３割自己負担であることに加え、高額な医療費がかかった場合でも、上限を定めて現実的な負担で済むこと、高額療養費の自己負担以外の部分は保険財源で負担していることを理解させる。  【解説の参考となる資料】  ・公的医療保険の仕組み  厚生労働省ウェブページ　我が国の医療保険について  <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/iryouhoken/iryouhoken01/index.html>      厚生労働省「医療費における保険給付率と患者負担率のバランス等の定期的な見える化について」  <https://www.mhlw.go.jp/content/12401000/000977519.pdf> |
| 展開②  5分 | (2)医療機関を受診したときの医療費 | 発問医療機関でもらう領収証や診療明細書から分かることは？【ワーク４】  ○副教材p.11～12の領収証・診療明細書を見て、どのような情報が読み取れるか考え、発表する。他の生徒の発表や指導者の説明も踏まえ、回答をワークシート（①）に記入する。  ○副教材p.11～12の領収証・診療明細書を見て、実際の医療費がいくらかかっているか確認し、発表する。回答をワークシート（②）に記入する。 | ○副教材p.11～12の領収証・診療明細書を示し、どのような情報が読み取れるか発表させる。  （領収証では、自己負担割合が３割であることを前提として自己負担額を計算しており、端数については、一の位の額を四捨五入している。）  ○副教材p.11～12の領収証・診療明細書を示し、実際にかかっている医療費がいくらか、発表させる。個別の診療項目が点数表記になっていることに気付かせ、点数と医療費の関係（１点＝10円）を説明する。  ・領収証・診療明細書の読み方を理解させるとともに、保険給付があることによって自己負担が低く抑えられていることを改めて理解・把握させる。 |
| 展開③  15分 | (3)国民皆保険制度の必要性① | ○国民皆保険制度について理解・把握する。  ○副教材p.13～15の「公的医療保険と民間医療保険の違いについて」を参照し、公的医療保険と民間医療保険のそれぞれの特徴を確認する。  発問「公的医療保険」がなく、「民間医療保険」のみ存在する場合にはどうなるでしょうか？【ワーク５】  ○副教材p.13～15の「公的医療保険と民間医療保険の違いについて」を参考に、グループで議論し、発表する。 | ○国民皆保険制度について説明する。  ・国民全てが公的な医療保険に加入し、病気やけがをした場合に「誰でも」、「どこでも」、「いつでも」保険を使って医療を受けることができる。  ・社会全体でリスクをシェアすることで、患者が支払う医療費の自己負担額が軽減され、国民に対して良質かつ高度な医療を受ける機会を平等に保障する仕組みとなっている。  【解説の参考となる資料】  ・厚生労働省「平成24年版厚生労働白書」  <https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/12/dl/1-03.pdf>  ○副教材p.13～15の「公的医療保険と民間医療保険の違いについて」を示し、公的医療保険と民間医療保険の違いを説明する。  ○グループで議論させ、いくつかのグループに発表させる。公的医療保険が極めて大切な制度であることに気付かせる。  ・お金がない人は保険に入ることができず、自分のお金だけでは治療にかかる費用を支払うことができないことから、必要な治療が受けらない可能性がある。  ・国民誰もが必要な治療を受けられるということは私たちが生活を送る上で重要である。また、人々が生活していく上での安心感を育み、社会全体にとっても重要である。 |
| まとめ  5分 | 本時のまとめ | ○ワークシートに本時で学んだことを記入する。 | ○共助の大切さ、国民皆保険制度の必要性を強調する。  ・誰でも年齢を重ねると、現在の健康状況、年齢に関係なく、いつでも予期しない困難に直面することがあるため、国民全てが加入する公的医療保険（共助の仕組み）が極めて大切であることに気付かせる。 |

【その他活用可能な教材等】

（導入）

・外部講師の活用

←年の近い卒業生（出産、子育て、医療、介護で社会保障制度を利用した体験を聞く。）、老齢年金受給世代等（年金についてどう考えるか聞く。）、各国の大使館（各国の社会保障制度について聞く。）へのインタビューを行う。年金制度について日本年金機構によるセミナー等を聞く。

※外部講師の活用の際はオンライン会議を積極的に活用。

・映画の視聴

←｢家族を想うとき｣、アメリカの医療保険制度について扱った｢シッコ｣等社会保障全般を題材に扱った映画を視聴し、社会保障が自分たちの生活に果たしている役割について議論する。

（参考資料）政策分野別社会支出の国際比較　　P.102

　※高齢支出には、老齢年金保険及び介護サービス（日本では介護保険）の給付費が含まれるが、医療保険の給付費は保健支出に含まれていることに注意が必要。

【コラム】　　P.105

〇高額療養費制度

【２時間目】

|  | 学習内容 | 学習活動 | 指導上の留意点  （社会保障教育の視点） |
| --- | --- | --- | --- |
| 導入  10分 | (3)国民皆保険制度の必要性② | 発問国民皆保険制度は必要か、それはなぜか？【ワーク６】  ○副教材p.17「年齢階級別１人当たり医療費（令和２年度）」を見て読み取れることをワークシートに記入する。これも踏まえてグループで議論する。 | ※年齢階級別１人当たり医療費のグラフの読み取りに当たっては、副教材p.8も参照しつつ、子ども期、成人期、高齢期に分けて、それぞれ他の時期に比べて１人当たり医療費がどのような傾向にあるか考えさせてもよい。  ○国民皆保険制度のメリットとデメリットを意識するよう促しつつ、グループで議論させ、その結果をワークシートに記入させる。（いくつかのグループを指名して発表させる。）  ・国民皆保険制度でなければ、保険料を負担しないという選択肢もあり得る。その場合に、各年齢階級における医療費を個人で負担できるかを考えさせる。  ・高齢になるにつれ、医療費は増大していく傾向にあること、一方で若いうちも医療費はかかっていることに注意させる。  ※医療保険制度は国によって大きな違いがあることを説明してもよい。例えばアメリカでは、公的医療保険は高齢者や障害者、低所得者だけを対象としており、民間保険の利用が一般的である。このため、医療保険に入っていないことによって巨額の医療費を請求されたり、加入している保険の種類によって受診できる病院に制限があったりする人がいる。 |
| 展開①  5分 | (4)日本の公的医療保険の課題 | 発問「医療費の動向」から分かることとその原因は？【ワーク７】  ○副教材p.18を見ながら、読み取れることとその原因として考えられることをワークシートに記入し、発表する。 | ○副教材p.18を示し、読み取れることとその原因として考えられることを考えさせ、発表させる。  ・導入で取り上げたように、高齢になるにつれ、一人当たりの医療費が増大する傾向にあることを取り上げ考察させる。少子高齢化の進行により、日本全体の医療費も年々増加している。 |
| 展開②  15分 | (5)日本の公的医療保険の課題への対応を考える（高額な医療への対応） | 発問日本の公的医療保険では、保険の対象となる医薬品とその「薬価」が定められています。現在、画期的な新薬として、数千万円するような新薬も登場していますが、そういった高額な新薬を保険適用することについて、どう考えますか？【ワーク８】  ○自らの考えをワークシートに記入した後、グループで議論する。グループで出た意見を発表する。グループでの議論や発表を通じて感じたことや理解したことをワークシートに記入する。 | ○限られた財源の中で、必要な医療サービスを提供することの難しさに気付かせるため、副教材p.19も示しつつ、個人で考えをまとめる時間を取った後、グループで議論させる。議論の結果を発表させる。  ・副教材p.19にもあるように、現在、画期的な新薬として、１人分の価格が一千万円を超えるような新薬も登場しているが、財源に限りのある中でそういった高額な新薬を全て保険適用することの是非について考えさせる。 |
| 展開③  15分 | (6)日本の公的医療保険の課題への対応を考える（医療費負担軽減へのインセンティブ付け） | 発問医療費負担軽減にインセンティブを持たせるため、健康な人の保険料を軽減する仕組みを導入してはどうか？【ワーク９】  ○自らの考えをワークシートに記入した後、グループで議論する。グループで出た意見を発表する。グループでの議論や発表を通じて感じたことや分かったことをワークシートに記入する。 | ○少子高齢化の進行に伴い、医療費が増大することが想定されるなかで公的医療保険を持続可能なものとするためには何らかの対応が必要だが、人々に新たな対応を求めるときは、自分とは異なる、様々な立場の方が納得できるものにする必要があることに気付かせるため、個人で考えをまとめる時間をとった後、グループでその是非について議論させる。議論の結果を発表させる。  態  ・インセンティブがあることで皆がより健康になろうと頑張り、全体の医療費が減少するというメリットが考えられる一方で、健康は自身ではどうしようもない要因があるにもかかわらず病気で保険料が上がってしまうと安心して生活を送ることができないし公平な制度とはいえないといったデメリットがあることに気付かせる。  ・自分自身の今の状況だけから考えるのではなく、様々な事情を抱えた人のことも想像しながら議論するよう促す。  ※あらかじめ、「病気をしたことがなく健康で、日々健康に気を使っている人」「病気をしたことがなく今のところ健康だが、睡眠・運動不足で食生活も乱れがちな人」「持病がある人」「生まれつき体が弱くて病気がちな人」といった多様なモデルを提示し、この制度がそれぞれの人にとってどのような影響があるか考えさせてもよい。 |
| まとめ  5分 | 2時間の授業のまとめ | ○ワークシートにこの２時間の授業で学んだことを記入する。 | ○これまでの学習を踏まえ、公的医療保険の課題を理解し、当事者意識をもって考えていく必要があることを伝える。 |